

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03504

研究課題名(和文)古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究

研究課題名(英文) Archaeological study on the interaction between Northeast Japan and the neighboring regions in Kofun period

研究代表者

菊地 芳朗 (KIKUCHI, Yoshio)

福島大学・行政政策学類・教授

研究者番号：10375347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,570,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本列島の古墳分布北縁地域である東北地方の古墳を主要な対象とし、顕著な地域間交流を示す遺構・遺物の実証的な調査分析を通じ、北縁地域の古墳の成立・変遷・終焉の過程と、それをもたらした地域間交流の実態を組織的に解明することを目的とした。この目的のもと、北縁地域の重要古墳に対する発掘調査および測量調査、北縁地域の既存の重要考古資料の調査分析、これらをふまえた周辺地域の関連考古資料との比較検討を行った。以上により北縁地域における古墳文化の特質をこれまで以上に明確にでき、あわせて北縁地域で行われた地域間交流の動態と背景に迫ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、古墳分布北縁地域の墳墓や集落が周縁地域相応の劣った内容を有するのではなく、時期や地域によって最先端のものが含まれる一方、それらは面的な広がりをもつことや継続することはなく、ダイナミックな変転をみせつつ古代律令国家へ移行してゆくことが明確になった。これにより、古墳文化が古代国家と大きく異なる本質をもつことが判明するとともに、日本列島の国家形成過程を検討するうえで周縁地域の様相とその変化の背景を把握することの重要性が示されることになった。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to solve issues about the processes of the beginning, changing, and ending of Kofun Culture in the north peripheral area(Northeast Japan) and about the interactions between Northeast Japan and the neighboring regions by eight experts. For these purposes we planned three themes; A. Field works for tumuli in the Northeast Japan, B. Precise researches on important artifacts from tumuli in these areas, and C. Analysis of these features and artifacts.

Considering these researches, we got the characteristics, the dynamic situations and the backgrounds of Kofun Culture in the north peripheral Japan.

研究分野：考古学

キーワード：古墳時代 古墳分布北縁地域 東北地方 地域間交流 福島県団子山古墳 福島県塚前古墳 宮城県一塚古墳 宮城県亀井園横穴群

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年の調査研究において、東北地方の古墳と古墳時代集落は、近畿や関東等のそれと大きく変わらない年代と様相で推移するとともに極めて動的かつ複雑なあり方をもつことが判明しつつある。一方、研究の基礎となる遺跡や遺物の調査と報告が必ずしも十分でないことが、東北の古墳時代研究を進展させるうえで大きな妨げとなってきた。東北の古墳文化の様相と特質を今以上に解明し、新たな研究段階に進むためには、これまでの実績を踏まえた重要墳墓に対するフィールド調査や、関連資料の調査分析による実証的研究の蓄積が不可欠である。また、膨大な数の遺跡と資料の調査分析を効果的に行うためには、関連する調査研究に関する知識・経験に優れた研究者による組織的な取り組みがその近道と考えられた。

2. 研究の目的

本研究は、日本列島の古墳分布北縁地域である東北地方の古墳を主要な対象とし、顕著な地域間交流を示す遺構・遺物の実証的な調査分析を通じ、東北地方の古墳の成立・変遷・終焉の過程、およびその歴史的特質を解明することを主要な目的とした。このため、東北地方の古墳に対する良好なフィールド調査を主な柱とし、さらに、この地域の既存の重要考古資料の公表と分析、および関連地域の遺構・遺物の比較検討を行うことで、北縁地域における古墳文化の特質を明確にするとともに、この地域において行われた地域間交流の動態と背景を浮き彫りにすることを目指した。

3. 研究の方法

東北地方の古墳時代墳墓の動向把握、および古墳分布北縁地域と南北地域との交流の実態・動向・背景の解明を達成するため、本研究では「フィールド調査」、「既存重要資料の整理・再検討」、「地域間交流解明のための比較分析」の三つのテーマを設定し、それぞれに配置した専門研究者による総勢8名のメンバーによって調査研究を推進した。

各テーマの成果は、「総合研究」として全メンバーが集合する年間2回の研究集会での発表と議論を踏まえ総括した。研究集会では、研究計画の検討や中間状況の報告をあわせて行い、計画内容に問題や未達成項目が確認されれば速やかに修正・改善に努めた。最終の2018年度には、研究総括と社会還元を目的として公開シンポジウムを開催し、その成果をまとめた冊子体の研究成果報告書を刊行する。

4. 研究成果

テーマ研究 フィールド調査においては、2016年5月に福島県国見町塚野目古墳群の測量調査を実施し、主墳である1号墳が従来の認識を上回る墳長72mの中期前方後円墳であることを明らかにした。2016年～2018年には福島県須賀川市団子山古墳の発掘調査を実施し、同古墳が墳長65mの前期前方後円墳であること、およびその埋葬施設の位置と規模を確定させ、北縁地域における前期古墳文化の波及過程を検討するための多くの材料を得た。2017年3月には福島県いわき市塚前古墳の測量調査を実施し、同古墳が墳長100mを前後する東北最大の後期前方後円墳であることを明らかにした。

既存重要資料の整理・再検討においては、2017年2月に東京国立博物館に収蔵される宮城県仙台市一塚古墳の出土遺物調査を行い、従来知られていなかった中期有力古墳に関する多くの知見を得ることができた。2018年・2019年に宮城県大崎市亀井田横穴群出土遺物の実測調査をそれぞれ実施し、終末期の重要横穴群の遺物の詳細を把握するとともに研究成果報告書において公表を果たした。

地域間交流解明のための比較分析においては、各メンバーが上記2テーマの成果を踏まえて担当資料・地域における地域間交流を分析するための資料調査を適宜進め、研究集会で発表を行った。

総合研究 各年度に2回、全体研究集会を開催した。第2回集会以降は本研究に関連する遺跡・遺物が所在する地域・施設に全員で赴き、メンバーの研究報告に加え地元研究者からの報告および遺跡巡検を行い、重要遺跡・出土遺物の把握によって研究目的の達成に努めた。また、2016年度中に福島大学考古学研究室のフェイスブックページを新規に作成し、これを活用してフィールド調査の成果発信、研究集会の周知や成果発信を行い、多くのページビューを得ることができた。そして、2019年2月に福島県郡山市で公開シンポジウム「古墳分布北縁地域の実態と交流」を開催し、研究メンバー全員が総括報告を行い、約100名の参加者をえるなか活発な議論を行った。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計7件)

1. 菊地芳朗「古墳時代の集落と豪族居館—東日本を中心に—」『平成30年度史跡古津八幡山弥生の丘展示館 企画展関連講座・講演会記録集』, 2019年, 29-42頁, 新潟市文化財センタ

- 一、査読無
- 石橋 宏「東日本における礫構造を持つ竪穴系埋葬施設について」『野本將軍塚古墳と東国の前期古墳』, 2018年, 45-57頁, 早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所, 査読無
 - 日高 慎「古墳時代の大型船に帆はあったのか」『同志社大学考古学シリーズ』, 2018年, 275-288頁, 同志社大学考古学研究室, 査読有
 - 菊地芳朗「古墳時代の東北と北関東—福島と栃木の比較を中心に—」『栃木県考古学会誌』第39集, 2018年, 1-19頁, 栃木県考古学会, 査読有
 - 藤澤 敦「弥生時代後期から古墳時代の北海道・東北地方における考古学的文化の分布」『国立歴史民俗博物館研究報告』第211集, 2018年, 447-486頁, 国立歴史民俗博物館, 査読有
 - 柳沼賢治「近年の福島県における古墳時代遺跡の調査」『発掘ふくしま4』, 2017年, 38-40頁, 福島県立博物館, 査読無
 - 菊地芳朗「出土武器類からみた城の山古墳」『城の山古墳発掘調査報告書』, 2016年, 363-369頁, 新潟県胎内市教育委員会, 査読無

〔学会発表〕(計3件)

- 石橋 宏「石棺から地域間交流を考える」, 中国四国前方後円墳研究会, 2018年
- 菊地芳朗「古墳分布北縁地域における後期大型前方後円墳の確認—福島県いわき市塚前古墳の測量調査より—」, 日本考古学協会第84回総会, 2018年
- 菊地芳朗「いわき市塚前古墳の測量調査とその意義」, 福島県考古学会2017年度大会, 2017年

〔図書〕(計4件)

- 菊地芳朗・佐藤純平編『団子山古墳6』, 2019年, 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室, 全50頁
- 菊地芳朗編『古墳分布北縁地域における地域間交流のための実証的研究』, 2019年, 福島大学行政政策学類, 全96頁
- 菊地芳朗・佐藤純平編『団子山古墳5・塚前古墳1』, 2018年, 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室, 全62頁
- 菊地芳朗・平澤慎編『団子山古墳4・塚野目古墳群1』, 2017年, 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室, 全30頁

〔その他〕

ホームページ等

福島大学行政政策学類考古学研究室 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/fukudaikouko/?ref=bookmarks>

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：藤澤 敦

ローマ字氏名：FUJISAWA, Atsushi

所属研究機関名：東北大学

部局名：学術資源研究公開センター

職名：教授

研究者番号(8桁)：00238560

研究分担者氏名：石橋 宏

ローマ字氏名：ISHIBASHI, Hiroshi

所属研究機関名：東北大学

部局名：埋蔵文化財調査室

職名：専門職員

研究者番号(8桁)：30755509

研究分担者氏名：柳沼 賢治

ローマ字氏名：YAGINUMA, Kenji
所属研究機関名：福島大学
部局名：うつくしまふくしま未来支援センター
職名：特任教授
研究者番号(8桁)：60783074

研究分担者氏名：日高 慎
ローマ字氏名：HIDAKA, Shin
所属研究機関名：東京学芸大学
部局名：教育学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：70392545

(2)研究協力者

研究協力者氏名：高木 晃
ローマ字氏名：TAKAGI, Kou

研究協力者氏名：青山 博樹
ローマ字氏名：AOYAMA, Hiroki

研究協力者氏名：草野 潤平
ローマ字氏名：KUSANO, Jun'pei

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。